

長野県自由民主党県議団

〒380-8570長野県長野市大字南長野字幅下692-2 県庁議会棟 2F  
TEL:026-235-2550 FAX:026-231-5571 <https://jimin-nagano.net/>

## JIMIN Nagano

2021  
Spring

～脱炭素社会づくりと先進技術に対応する地域づくりに向けて～  
2050年ゼロカーボン社会 & 先端技術の推進

新型コロナに打ち克つ力強い県土づくりのために

### 新年のごあいさつ

県民の皆様には、新春を健やかに迎えのここと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちのライフスタイルは大きな変化を余儀なくされ、東京オリンピック・パラリンピックも延期となるなど、様々な催事にも大きな影響をもたらしました。また、本県経済においても、幅広い業界に影響が波及しており、急速に仕事や働き方の見直しが進んでいます。

このような中、県民の皆様の命と暮らしを守るため、最善の策を間断なく講じていく必要があります。私達、自由民主党県議団は、コロナが収束して自粛から脱却し、県民誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、そして長野県が、以前よりも一層魅力にあふれた地域として発展できるよう、新たな年においても誠心誠意全力で取り組んでまいります。

本年が、皆様にとりまして、活力と絆を取り戻し、実り多い年となりますよう心から祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

長野県自由民主党県議団

### 2021年 長野県自由民主党県議団 重点施策 ～県民一人ひとりのしあわせのために～

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| ① 災害被害の復旧・復興と地域経済の再興            | ⑤ 防災・減災と国土強靱化を進め災害に強い県土づくりを                |
| ② 新型コロナウイルス感染症に対応した地域医療の充実      | ⑥ オリンピック・パラリンピック及び2028国民体育大会を契機に県民スポーツの充実を |
| ③ ゼロカーボン社会実現に向けた自治体・企業との連携      | ⑦ アフターコロナを見据えた先端技術導入に向けた経済圏づくり             |
| ④ DXを推進するためイノベーションを喚起し次世代産業の創出を | ⑧ スマート農林業の推進による効率的な経営支援                    |



長野県議会議員  
自由民主党県議団  
ISAWA DAI  
**石和 大**



「県政を身近に」「身近な声を県政に」

# 大ちゃんニュース

石和 大の県政レポート vol.33

新年を迎えて心新たにスタートをきりました。今年こそはコロナ禍の収束を願っています。11月定例会では、コロナ禍での歯科診療の在り方や、オーラルフレイル等口腔ケアについて質しました。受信控えや、災害時の口腔ケア不足がオーラルフレイルを招き、全身の健康状態を健全に保てないことが無いよう対策しなければなりません。また、県内学生の実況、県出身の大都市圏で暮らす学生の実況と課題等を取り上げました。キャンパスライフを満喫できていない学生のみならず、充実した学生生活を送れることを願っています。

## 2020年11月定例会県議会 一般質問(抜粋)

### 歯科口腔衛生に関して

【石和議員】新型コロナは飛沫を介して感染が伝播すると考えられることから、歯科診療には感染リスクが伴うものと考えられる。新型コロナウイルス感染症の流行拡大時等において、県内歯科診療所をはじめ関係機関が連携して歯科診療体制を整備することが急務と感ずるが、所見を伺う。

【健康福祉部長】歯科診療では、唾液等への接触や、歯の切削による飛散等、感染リスクの高い治療が行われることから、感染防止の対策を確実に行う必要がある。そこで県では、陽性者や濃厚接触者と

いった感染リスクの高い方が緊急性を要する歯科治療を受ける場合には、保健所を通じて、感染症指定医療機関等の歯科外来に対応を依頼するなど、関係機関の連携による診療体制を構築しているところ。引き続き、感染の流行拡大時においても、必要な方が安全に歯科診療を受けられるよう取り組んでいく。

### コロナ禍における大学生のキャンパスライフについて

【石和議員】新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、大学生は学業をはじめ様々な面で不自由な学生生活を強いられている。現在、対面授業を二

部再開している大学もあると聞くが、文部科学省からどのような通知が届いているのか、それを受けて、県内の大学の授業はどのように運営されているのか。また、長野県立大学の現状はどうか。

【県民文化部長】学習機会の確保と感染防止の両立を図るといふ観点から、本年度の後期授業の実施に関する通知が、9月に文部科学省から各大学宛てに出されている。

●大学教育は遠隔授業のみで全てが完結するものではなく、豊かな人間性を涵養する上で、直接の対面による学生同士や学生と教職員の人的な交流等も重要な要素であること



●遠隔授業は特例的な措置であり、感染対策を講じた上で適切と判断される場合は、面授授業の実施を検討すること

●学生同士の交流機会の設定について積極的に対応すること

次に、県内大学の状況については、各大学に聞き取ったところ、前期は遠隔授業主体の大学が多い状況だったが、後期は、県内18大学中、対面授業の主体が11校、対面・遠隔の併用が7校、遠隔授業のみの大学は無い、という状況となっている。

●県立大学については、前期は、部の実習を除き、遠隔授業で実施し、後期に入ってから、対面・遠隔の併用で実施していたところだが、11月14日の長野圏域の感染警戒レベルの引き上げに合わせて、現在は、感染拡大防止のため、実習等の科目を除き、遠隔授業により実施をしている。

【石和議員】首都圏や大都市圏の大学に在籍している県内出身の学生の、学生生活の実況をどのように把握しているか。また、県内の大学生、さらに長野県立大学の学生の状況はどうか。

【県民文化部長】県内出身の学生の状況ということでは、調査による特別な把握はしていない。文部科学省が実施した調査では、後期授業については、ほとんどの大学で対面授業又は対面・遠隔併用によ

り実施している。また、全国大学生協連合会が7月に実施した調査では、学生から、アルバイトや家計の収入減少、遠隔授業による課題の多さや心身への影響、就職など今後の進路といったことに不安の声が寄せられている。対面授業が行われないこと、サークル活動も行われないことなどへの嘆きも報道されている。

文部科学省の調査によると、各大学では、約7割の学校で新入生へのコミュニケーション機会を設定したり、メンタルヘルスのケアのため、約9割の大学で相談窓口を設置するなどしている。

県内大学に対するアンケートでは、「アルバイト収入が減っている」、「精神面で不調となる学生が増加している」、「就職の内定率が昨年度に比べて低くなっている」といった状況、また、それぞれ大学において、窓口を設置するなどの対応を行っている状況。

県立大学においては、大学が行った学生アンケートでは、「遠隔授業は疲れやすい」、「友人に会えない」、「就職活動についての不安や悩みがある」、また一方、「遠隔授業は一定の効果がある」、といったような回答が寄せられている。大学の支援センターでは、学生が相談しやすいよう、困りに特化した相談時間を設けるなど、きめ細かな対応を行っている。

☆全文が県議会ホームページに掲載されています。そのうちご覧いただければ幸いです。

# 大ちゃん活動スナップ



▲危機管理建設委員会審査(委員会室)



▲自治体からの要望調査(長和町)



▲ワイン用ブドウ畑現地調査(東御市)

自由民主党県議団事務所 東御市支部

〒389-0518  
東御市本海野1694-1  
TEL.0268-75-8513



▲会派から知事へコロナ対策緊急要望(県庁)



▲台風災害復旧現場調査(南牧村)